

# 〈学級経営〉 キャリア教育を通して、自立する生徒を育む指導の在り方 ～ 継続的に夢と希望をもたせる学級経営 ～

白川村立白川中学校 教諭 野島 将也

## 1. 主題設定の理由

本校の教育目標は「ひとりだちする生徒」である。この目標には「自分の考えや行動に責任をもち、たくましく自分の人生を切り拓いていく人物の育成」という願いが込められている。生徒の実態や白川村の教育環境を踏まえ、この目標を達成させるためには、次の二つを実践していくことが必要であると考えた。

- (1) 将来どのような自分になりたいのかという目標をもち、そのために今何をすべきか考え、動機をもって自ら行動する生徒の育成。
- (2) まわりや自分に対する決めつけた見方（序列意識）を排除し、一人一人の生徒が新たな自分作りに向けて、願いをもって歩み出すことができる集団作り。

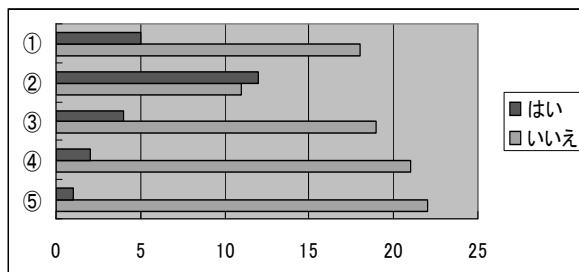
### (1) について

「先生、終わりました。次何すればいいですか。」  
「先生から〇〇という指示が出たので、みんなその活動をやって下さい。」このように、受け身的（やらされ意識）な姿が日々の教育活動の中で多々見受けられた。このような発言をする生徒の意識を考えてみると、「面倒くさい、何のためにやるの?」といった目的意識の希薄が伺える。生徒一人一人の実態を捉えるために、年度当初、目的意識についてのアンケートを採ることにした。質問内容と集計結果は以下の通りである。

### 【質問内容】

- ① 「こんな人になりたい」という理想像はありますか。
- ② 将来、就きたい職業はありますか。
- ③ 進学したい高校はありますか。
- ④ 夢の実現のために、今何をすべきか考えていますか。
- ⑤ 夢の実現のために、苦手なことや面倒くさいと思うことでも、頑張っていて取り組んでいることはありますか。

【集計結果】(アンケート対象者 2年生 23名)



②「将来就きたい職業はあるか」についての質問に対して、12名の生徒が「はい」と答えた背景には、1年次に行った「職場訪問」の体験がある。12名中10名が、その時に訪れた職場の職業を挙げていた。また、③「進学したい高校はあるか」についての質問に対して「はい」と回答した4名の生徒は、いずれも兄弟が進学した高校を挙げていた。

この集計結果からも分かる通り、目的意識の希薄さが伺える。また、⑤の回答から、目的意識の希薄さが日常生活における活動に、意欲をもって取り組むことができない要因になっていることも伺える。

以上の考察から、目標をもち、そのために今何をすべきなのか考えることができれば、自ら考え行動できる生徒の育成に繋がるのではないかと考える。

目標をもつことの意義について、国立教育政策研究所は「キャリア教育を推進する意義」の中で、次のように述べている。

一人一人の子ども達が、将来の進路と日々の教育活動の意義とを結びつけ、自分と社会をつなぎながら、力強く未来を切り拓く力を獲得できるよう、キャリア教育を一層推進させていく必要がある。

このことから、キャリア教育を推進していくことが、自ら考え、活動に励むことのできる生徒の育成に繋がると考えた。

では、目標をもたせるためにはどのような手立てが必要なのか。国立教育政策研究所は「中学校におけるキャリア教育の目標」を次のように述べ



ような図式で示した。

②【生徒に意識してほしい視点を柱に据える】

まわりや自分に対する決めつけた見方（序列意識）を排除し、一人一人の生徒が新たな自分作りに向けて、願いをもって歩み出せるようにするために、前期のテーマを「個の伸長」と掲げた。後期は前期中に培った一人一人の力を、認め合い、尊重し合い、切磋琢磨し合うことによって学級目標「輝き」の達成につながると考えた。つまり、個人の高まりが集団の高まりに繋がるといふ考えである。

③【学習面、生活面の目標と取り組む活動】

学級目標の達成を図るために、学習面と生活面の目標を設定した。この目標を達成させるために、それぞれの活動の場を明確にすると共に、中心に据える活動を設け、系統的な図で示した。これによって、計画的に取り組めるようになると共に、動機をもって取り組めるようになると考えた。

たとえば、学習面では、前期、後期末に「<sup>\*1</sup>最高の授業作り」という学習面での集大成の場を設けている。この集大成の場に向けて、個人として、集団として今どのような力をつけなければならないのかを、考え振り返られるものにした。

また、生活面では、総合的な学習の時間のテーマを「人の生き方」と設定し、学級活動、道徳の時間、行事と関わらせながら、「進路計画と暫定的選択」、「生き方や進路に関する現実的探索」を行っていく意図を系統図で示した。

④【学級執行部会で話題にする学級の実態】

学期末に学級執行部会を開き、この表をもとに成果と反省を明らかにし、改善策を考え、以後の活動の修正を行う。改善策を考える際に最も重要なことは、具体である。抽象論にならないようにするためにも、今後の活動の見通しや、目指す目標を明確にしておくことが大切であると考えた。

この方針図は、中だるみが起こりやすい一学期末から二学期半ば頃に指導をする中で、自分自身を振り返らせる有効な資料にもなると考える。

次に、学級経営方針図に位置付けた二つの研究内容について述べていきたい。

研究内容（1）

「将来どのような自分になりたいのか。」という目標をもち、そのために今何をすべきか考え、動機をもって自ら行動する生徒の育成。

生徒に目標（動機）をもたせるために、それぞれの活動の開始時に構成図を作成した。以下に作成時期、構成図の意図（説明）を示した。

【学級活動で行うキャリア教育】

〈輝き構想図の作成〉（別添資料2参照）

四月当初の学級活動の時間に作成する。これが全てのキャリア教育の根幹になるため、年間を通して掲示していく。

「こんな人になりたい！」を最終的な目指す人物像と捉え、そのために「こんな職業に就きたい！」、そのために「こんな高校に進学したい！」、そのために「今こんな力を付けたい！」と下りていき、自分の将来になりたい姿を実現させるためには、今何をすべきかを考えさせ、活動への動機付けを図る。

注意すべきことは、最終的な目標を「こんな職業に就きたい！」にしてはいけないことである。これまでの生活の中で得た職業観や職業の種類、職業適性に関わる自己分析などは浅薄なものであり、これからの生活の中で多くの人との出会い、職業に対する考え方や価値観が増長していくことを考えると、職業を最終的な目標にしてはいけないのではないかと考える。

〈組織決めに関わる取り組み構想図の作成〉

（別添資料3参照）

前期、後期の組織決めの取り組み開始時に作成する。

これは「輝き構想図」の「こんな自分になりたい！」を目指す姿と位置付け、そのためにこの委員になって、こんな活動を行い、こんな力を付けたい、といった構想図である。目的意識をはっきりさせ、そのためにどんな活動をしていきたいのか、活動への動機を明確にもたせることがここでの目的となっている。

〈学習に関わる取り組み構想図の作成〉

(別添資料4参照)

前期、後期末に行う「最高の授業作り」の取り組み開始時に作成する。

この構想図は、逆転の発想から作成する。「最高の授業作り」を通して、どんな力が付き、それがどう自分の思い描く「こんな人になりたい!」に関わっていくのかをイメージさせ、学習への動機付けを図る目的がある。

これまで生活面の向上を図るための構想図を作成してきた生徒にとって、学習面の向上を図るための構想図を作成しようとした時に、「輝き構想図」と結びつけることは容易でないと考え、この活動がどのように関わってくるのかを考えさせることを主な目的として捉えた。

【道徳の時間でやるキャリア教育】

それぞれの活動時に表れるであろう生徒の心情を見越し、勤労観、職業観を段階的に養う系統図を作成する。

道徳教育方針図 (別添資料5参照)



【総合的な学習の時間でやるキャリア教育】

〈体験活動に関わる取り組み構想図の作成〉

(別添資料6参照)

5月末の大都市研修、8月初旬の職場体験、11月中旬の文化発表会(総合的な学習の時間の発表)の取り組み開始時に作成する。

これは「輝き構想図」をもとにして、それぞれの体験活動の趣旨と関わらせて作成する構想図である。「輝き構想図」は抽象的なイメージに対して、具体を見出していく取り組みである。具体的なイメージをもって実際に体験することで、理想とのギャップが生まれ、真の職業観を学習できると考える。

研究内容(2)

まわりや自分に対する決めつけた見方(序列意識)を排除し、一人一人の生徒が新たな自分作りに向けて、願いをもって歩み出すことができる集団作り。

活動の内容と意図、時期は以下の通りである。

【自己肯定感を抱かせる取り組み】

① 学級開きの時に配布する学級通信に、一人一人の長所を載せ、その後、口頭で価値付ける。新たな学年となり、心機一転頑張ろうとする生徒達の心情を突き、「担任は頑張ったことを認めてくれる」といった風潮を作り出す。頑張ることは恥ずかしいことではなく、これからの生活を通して新たな自分作りに取り組んでいこうという心情を生み出す学級開きにすることが肝要であると考えます。

② 輝き構想図で思い描いた「将来こんな人になりたい!」から考えた「自主的活動」を行うことによって、「自分もやれる」という実感を抱かせる。これは、輝き構想図を作成した次の日から一週間取り組ませる。

③ 通信を通して、活動への動機を抱き、自ら進んで考え活動に励んだ生徒を価値付ける。通信に載せる内容は、活動の事実とその活動を行った時の気持ちである。

【自己有用感を抱かせる取り組み】

- ① 帰りの会の中で「今日の輝き」と銘打った、仲間からの価値付けを行う。発達段階に合わせ、一学期は「自分の仕事に責任をもって取り組んでいる仲間」、二学期は「自分の仕事以外のことも進んで取り組んでいる仲間の姿」、三学期は「後輩に姿で示しながら働きかける姿」という視点で事実を見つけ出し、班会議を行った後に班長から全体へ発表する。
- ② 自ら進んで取り組むことができない生徒や、動機があっても実際に行動に移すことができない生徒に対しては、個人懇談や生活ノートの記述によって、なぜ行動に移せないのか、自分を見つめさせ、その悩みや葛藤の気持ちを明らかにさせる。また、その悩みや葛藤の気持ちを通信に書き、帰りの会を使って全体で話し合う。

を配布した。(別添資料7参照)

版 塊				
いつもはいい私がいります」と言って自ら動ける心の持ち主 I・A zh	困っている仲間に、丁寧に最後まで教えてくれる優しい心の持ち主 O・M zh	してもらった人が嬉しくなる。心からの「ありがとう」の感謝の言葉 N・A zh	誰に対しても、何に対しても誠実に向き合うことができる M・N zh	いつも一生懸命に取り組む、自分を高めようとしている Y・Y zh
丁寧に几帳面に取り組む、興味あることに夢中になれる I・U zh	豊かな感受性をもち、気持ちを素直に伝えることができる O・T zh	自分で決めたことを有言実行し、積極的に取り組むことができる H・M zh	学級をよくしようという考え、行動に移すことができる M・N zh	学級全体を自分のこととして考え、積極的に取り組むことができる W・K zh
自分が興味のあることに、誰よりも夢中になれる。集中力がある I・Y zh	どんなことにも挑戦し、どんな時にも前向きで輝いている K・T zh	いつもじっくり考え、慎重に取り組む。確実に進めることができる H・K zh	周りの仲間へ気を遣い、勇らしさという一本芯の通った M・D zh	「ありがとう」「ごめんなさい」を言える素直な心の持ち主 W・Y zh
どんなことにも挑戦し、最後までやり抜くことができる U・H zh	こつこつとひたむきに取り組む、一歩ずつ成長している K・K zh	周りの仲間へ気を遣い、仲間を温かい雰囲気にしていく F・M zh	自分の仕事に責任をもち、最後までやり抜くことができる Y・M zh	自分でやると決めたことは最後までやり抜く、責任感の持ち主 W・T zh
いつも笑顔で明るく、周りの仲間も笑顔にすることができる O・M zh	持ち前の明るさと素直さで誰からも信頼され、愛されている S・M zh	誰からも好かれ、誰からも信頼され、頼りがいのある存在 H・J zh	前期の組織が決まるまでの約1週間、出席番号順の班で生活していきます。係の仕事は前年度の担当者が行うようにしましょう。持ち前の「はい、私がいります」精神で!	

4. 研究実践

実践を述べるにあたり、変容の大きかった生徒を1名抽出して説明していきたい。また、活動の記録とその時の心情を時系列で追いながら説明した方が、変容を分かりやすく伝えることができると考えるため、研究内容(1)、(2)を踏まえ、年間を通して説明していきたい。学級全体の変容については、自主的活動キャンペーン、職業研究の後に採ったアンケート結果で示していきたい。

〔2年生の実践より〕

抽出した生徒：U子

(「動機をもつ」という視点における、昨年度のU子の実態)

- 興味関心をもてることに対して、意欲的に取り組むことができる。特に絵を描くことに興味がある。
- ▲「どうせ私にはできないから」など、自分を否定的に捉えている。
- ▲「面倒くさい、なんのためにこんなことするの。」とよく口にする。
- ▲一つの物事に長時間取り組むことができず、すぐにあきらめてしまうことがある。

【学級開き】

前年度の生徒の姿から捉えた長所を載せた通信

一人一人の名前を読み上げながら、長所を伝えていった。そして、次のように話した。「ここには23個の光があります。この光を集結させた時、輝きを放つクラスになります。集結させるには、一つ一つの光を照らし合う必要があります。お互いに切磋琢磨するという事です。でも、今のままでは小さい輝きしか放てません。一つ一つの光を大きくすれば、大きな輝きを放てます。」その後、「個を高める」→「集団が高まる」と書き、今年度の学級方針を伝えた。

次の日の生活ノートに、U子は次のようなことを書いてきた。

今日の通信に私の長所が書いてありました。自分では几帳面だと思いません、面倒くさがりなので。だけど、「夢中になれる」ということは、絵を描いている時に自分でも感じます。でも、興味ないことには夢中になれません。今日からお願いします。

この感想からも、彼女の自己否定感が伺える。また、彼女の動機は、好きか嫌いかで決まるということが分かる。

自分に興味あること(将来の夢)を追う中で、他の活動や勉強の必要性を抱かせていきたい。その手立てとして、次の日に輝き構想図を作成した。

### 【輝き構想図の作成】

彼女は「こんな人になりたい！」の欄に「\*2 えんぴつ人間（私が学級開きの際に座右の銘として語った言葉）」と書いた。なりたい職業は「漫画家」。この職業に就くために専門学校に進学したいという。このようなことから、今付けるべき力は「集中力、あきらめない心」と書いた。

彼女は普段から「面倒くさい、なんのためにこんなことするの。」とよく口にする。また、一つの物事に長時間取り組むことができず、すぐにあきらめてしまうことがある。絵の上手さは「家庭の日啓発図画 県入選」程である。

このような彼女の実態（様子）と「輝き構想図」を比較する中で、次の三つのことが分かる。

- ①自分の短所を理解していると共に、今後改善していきたいという気持ちがある。
- ②将来の夢と現実の自分とのギャップを感じている。
- ③私の言葉を引用して書いたことから、理想とする将来像が曖昧であると共に、理想を抱くことの重要性、必要性を感じていないのではないのか。

③から、理想を抱くことの重要性、必要性をねらう道徳教育を行った。

### 【道徳の時間で行うキャリア教育①】

資料名：「悲願のリング」

ねらい：生き甲斐を感じて生活するには、理想とする生き方や将来の目標をもつことが必要であることに気付き、理想をもって生活しようという心情を育てる。

授業後に書いた彼女の感想は以下の通りである。

主人公の昌美さんが最後に言った「リング道入りは、名誉や賞を得るために始めたことではない。人間らしく生きる道を迷い込んだ道なのだ。」という言葉に感動しました。

私は何でもすぐに「面倒くさい」と思ってしまいます。でも絵を描く時だけは時間を忘れるくらい黙々と取り組みます。それは、絵が好きだからだと思います。もっと上手に書きたいと思うからです。目標をもつと、どんなことでも意欲的に取り組めるのだなと思いました。

今までの自分を振り返る中で「目標をもつことが意欲に繋がる」ということを彼女は感じるこ

ができた。心の耕しの次の段階として、行動に移し実感を得る取り組みを行った。

### 【自主的活動キャンペーン】

U子の選んだ活動は「机列の整頓」である。これは、一年生の時に係として取り組んでいた活動である。しかし、2学期後半からさぼってしまう日が多くあったと言う。「選んだ理由」の欄には次のように書いてあった。

1年生の時にさぼってしまい、やり通すことができなかつたので、輝き構想図に書いた「えんぴつ人間」に近づくために、「机列整頓」を選びました。

### 【「今日の輝き」紹介（帰りの会）】

今日一日の中で見つけた仲間の良い姿を紹介する取り組みである。「良い姿」の視点は、学級経営方針図に沿って学期毎に変えていき、「今どんな姿を目指しているのか」を理解すると共に、「自分の姿はどのようにまわりから映っているのか」といった自己有用感をねらう取り組みである。一学期の視点は「自分の仕事に責任をもって取り組んでいる姿」である。

自己活動キャンペーンの取り組みを行っている4日目にU子の姿が仲間から紹介された。以下にその時の様子を載せた。

生徒：「昨日教室に忘れ物をして取りに戻ったら、U子さんがみんなの机をきれいに並べていました。今までのU子さんと違って、一生懸命に取り組んでいてすごいと思いました。」

担任：「すごいって言ったけれど、もう少し詳しく聞かせて。」

生徒：「U子さんは1年生の後期に、机列整頓係をやっていましたが、忘れてしまうことがありました。でも、この取り組み中は、今まで忘れることなくやってくれています。」

担任：「1年生の時にはできなかったことが、2年生になってできるようになったことがすごいだね。U子さんは、どうして2年生になってできるようになったんだろう。聞かせて。」

U子：「なんとなくですが、今まではいつも面倒くさくなってしまっ

らやらなくなってしまうていたから、一週間だったらやり切れると思って取り組んでいます。」

担任：「一週間やり切れたら、U子さんが書いたえんぴつ人間に、必ず近づけると思うよ。」

一週間の取り組みであったが、U子は欠かすことなく放課後の机列整頓を行うことができた。活動の振り返りには次のようなことが書いてあった。

1年生の時は、自分の仕事だったにも関わらず、すぐにさぼってしまいました。今回の取り組みは、たった一週間だったけれど、欠かすことなく取り組めたのでよかったです。最後までやり切ることができて、少し自信がもてました。

1年次の自分と、取り組み後の自分を比較し、「少し自信がもてました。」と実感している彼女の言葉から、自己肯定感を抱き始めていることが分かる。新たな自分作りができたことを価値付け、共感させるために、キャンペーン後の感想を通信に載せた。

#### 【自己活動キャンペーン後の学級通信】

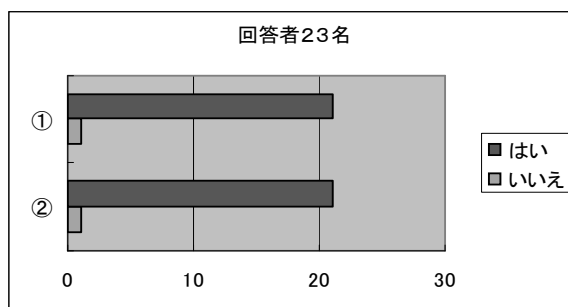
(別添資料8参照)

通信を配布した後に、学級全員に目的意識についてのアンケートを採ることにした。質問内容と集計結果は以下の通りである。

#### 【質問内容】

- ① 自主活動キャンペーンを行ってみて、目標をもって取り組むことの大切さを実感することができましたか。
- ② 今年一年間、新たな自分作りに挑戦してみようという気持ちをもつことができましたか。

#### 【集計結果】



①、②の質問に対して、同一生徒1名が「いいえ」と回答した。この生徒は、自主活動キャンペーンに取り組んだ5日間の中で、2日欠席した。アンケート回収後に話を聞いてみると、やり切ることができたという達成感が感じられなかったと言う。活動を通して実感することのできる達成感こそ、自己肯定感を抱く要因となることが分かった。その他22名の生徒は、自己活動キャンペーンを中心としたこのような活動を通して、新たな自分作りに向けて、歩み出すことができた。

これまでの活動の成果が最も表れる場が学級組織決めである。何人の生徒が新たな自分作りに挑戦し、学級長や班長に立候補するかによって、これまでの取り組みの中で、自己肯定感と自己有用感を抱かせることができたかどうか分かる。

#### 【学級組織決めに向けて取り組み】

「理想の自分になるために、今度はどんな自分作りが必要か」と問いかけ、組織決め構想図(資料2)を書かせた。U子は次のような構成図を書いた。※「」は本人が記載した言葉

「最後まであきらめない人」になるために、自己活動キャンペーンで「机列整頓」を行い、「継続して取り組む力」が付いた。だから今度は「文化委員」になって、「面倒くさい仕事でも、積極的に行う力」を付けたいです。具体的には「読書タイムの呼びかけや本の期限が切れた人への呼びかけを積極的に行います。また、自分から進んで本を読み、おもし

ろい本の紹介をします。」

「〇〇な人になりたい！」の欄に「最後まであきらめない人」という明確な願いが書けたのは、自主活動キャンペーンを通して得た「やればできる」という自己肯定感が芽生えたからではないかと推測する。また、明確な目標をもつことができたからこそ、自分の苦手としていた「面倒くさい仕事でも積極的に行う」ことをしていきたいと述べているのではないか。彼女の構想図から、自己否定感から自己肯定感への確かな変容を感じた。

また、今回の選挙で6名の学級長立候補者と8名の班長立候補者が出てきた。その中には、小学校時代を通して、初めて学級長や班長に立候補した生徒が7名もいた。

#### 【学級組織決め】

次の流れで学級組織を決めていった。

- ① 立候補者の演説
- ② 立候補者への質疑応答
- ③ これまでの生活の中から伺えた、立候補者の活動事実の価値付け
- ④ 選挙
- ⑤ 感想及び決意表明

自己有用感を抱かせるために工夫した項目が③である。自己活動キャンペーンを通して実感できた「自分だってやればできる」という気持ちを、まわりの仲間から価値付けられることによって自己有用感を抱くことができると考える。

また、選挙でふさわしい人を選ぶ際に、自己活動キャンペーンでの活動事実から判断させていきたいというねらいもある。

U子は文化委員に立候補した。以下は③「これまでの生活の中から伺えた、立候補者の活動事実の価値付け」の時の様子である。

生徒A：「Uさんは自己活動キャンペーンで机列整頓を最後まで取り組むことができました。さらに、一つ一つの机を丁寧に並べ、全部並べ終わるまでに5分も掛かったそうです。自分の仕事に責任をもって取り組むことができたU子さんなら、文化委員になっても頑張ってくれると思います。」

生徒B：「1年生の時にはなかなか取り組めなかったことを、自己活動キャンペーンの取組内容で選び、最後ま

でやり切ることができたUさんは、文化委員になっても責任をもって取り組んでくれると思います。」

その後、選挙を行い、U子は文化委員になることができた。決意表明からも、自分の仕事を徹して行おうという思いが伝わってきた。

#### 【「人の生き方」の研究テーマ作成】

キャリア教育を行うにあたり、今年度の総合的な学習の時間のテーマを「人の生き方」と設定した。大都市研修（名古屋研修）、職場体験、文化発表会を、実践的な活動の場と位置付け、関わらせながら研究を進めた。

大都市研修の取り組み開始時に、輝き構想図と関わらせて、訪問する職場を選んだ。（資料4）U子は「最後まであきらめない人」に近づくために、訪問したい会社を「イラスト関係の会社・アニメ制作会社・大学」と書いた。

「大学」を選んだ理由として、次のように述べている。

大学の教授は、いつも夜遅くまで自分の研究をしていると聞きました。私は集中力が無いので、すぐにあきらめてしまいます。だから、大学の教授に、「なぜそんなに集中して取り組めるのか」を聞いてみたいと思って選びました。

この理由を読むと、目標を達成させるために、自分の弱点をいかにして克服すべきか考えた末の選択であったと考える。自分の弱さを克服しようとする前向きな気持ちが伺えた。

結局、将来の夢である「漫画家」に近い職業であるという理由から、「名古屋デザイナー学院」に訪問することを決定したが、将来の夢を追うための研修にしたいという動機をもち、一人で訪問することができた。

#### 【職業研究】

大都市研修の取り組みでは「働くことのやりがい」を、職場体験の取り組みでは「働くことのできるさ」を学習した。その上で将来になりたい職業の研究を行うことにより、働くことの意義や生き方を学び、「今、自分は何をすべきか」を想起させ、動機付けるねらいで行った。

U子は大都市研修で、お客様に喜んでもらうこ



とが仕事のやりがいであることを学び、職場体験では、同じ仕事を繰り返すことの大変さを学んだ。職業研究では「漫画家」の職業について研究した。なるためにはどのような進路が考えられるかを調べ、その後、具体的な漫画の作り方や道具の使い方を学習し、実際に作成して文化発表会の場で全校生徒に発表した。

以下は研究を終えての感想である。

本格的な道具を使って絵を描くことはとても楽しかったです。また、全校の前で発表した時、みんなに絵の描き方とか道具の使い方などを質問され、興味をもってくれたことがとてもうれしかったです。

だけど、今回の研究を通して「漫画家なれないな」と自信を無くしました。初めのうちはとても楽しく取り組みましたが、一つのコマを完成させるまでに3時間くらいかかり、何度も投げ出しそうになりました。また、構成を考える時も時間が掛かってしまいました。もっと国語力をつけないといけないなとも思いました。

結局、文化発表会までに完成できずに、未完成の作品を発表しました。自分の面倒くさがりな性格がよく分かりました。

実際に漫画作りを行ってみて、理想と現実のギャップを感じていることが伺える。自分の短所が夢の実現を拒むものになっていると認識している。このことについて、U子は二日後の生活ノートの中で次のように述べている。

私の目標は漫画家になることです。これって将来の夢だけど、漫画家になることが人生の最大の目標です！今書いた後に、ハッと我に返ったんですけど、絶対になれっこない。これは目標じゃなくて夢です。

私は「絵うまいっ！」って言われるから漫画家なろっかなー！？って、軽い気持ちで漫画家になりたいなんて言っています。努力しないし、ただ願うだけです。

昔は粘り強いつてよく言われたし、自分も目標のために結構努力していたんですが。

消極的な考えに変容していることが分かる。そこで、彼女の許可を得て、上記の内容を通信(別添資料9)に載せた。そして、学級活動の時間に、彼女の心の葛藤について話し合った。

以下は話し合いの様子(一部)である。

生徒：U子さんは努力していないと言っていたけど、1学期の頃に比べて、提出物を期限までに出すことができるようになってきていると思います。

U子：でも、なんかやらされているって感じで…意欲が湧きません。面倒臭がり屋だからかな。こんなんじゃ、絶対に漫画家になれっこないと思います。

U子は「面倒臭がり」というレッテルを終始自分に貼り付け、「こんな性格だからなれっこない」と自分に言い聞かせているように感じた。

そこで、困難に出会ったこそ、前向きな気持ちで乗り越えようとする心情を抱かせるために、「理想の実現」をねらう道徳を行った。

#### 【道徳の時間で行うキャリア教育②】

資料名：「貧乏神様(自作資料)」

ねらい：夢の実現とは、目先の利益や困難によって自己を見失うのではなく、人としてどう生きていきたいのかを追求していくことで得られることに気付き、理想の実現を目指して、人生を切り拓いていこうとする心情を育てる。

授業後に書いた彼女の感想は以下の通りである。

主人公のまつ吉は、貧乏になったにもかかわらず、貧乏な生活の中から家族の幸せを見つけていったことが分かりました。

私は総合の時間に漫画づくりをしています。自分の面倒くさがりな性格がじゃまして、漫画家になる夢をあきらめてしまいました。だけど、やっぱり絵を描くことが好きなので、めげずに夢を追いかけたいと思います。また、国語を勉強して、構成する力を付けていきたいと思います。

職業研究を通して、夢を実現させるために自分に足りないものを明らかにすることができ、それが原因で夢をあきらめかけていたU子は、道徳の授業を通して、自分の弱さを乗り越え、再度夢を実現させようという思いを抱くことができた。

また、構成力を付けたいという動機が湧き、国語を学習する動機も生まれた。そこで、この機会に、学習に対する動機をより確かなものにするために「学習に関わる取り組み構想図」を作成した。

### 【学習に関わる取り組み構想図の作成】

この構想図は、普段の勉強が将来の自分にどう関わってくるのか考えさせ、動機をもって取り組めるようにすることをねらったものである。また、取り組みの出口を前期末、後期末に行う「最高の授業作り」に位置付け、具体的な姿を想起させながら作成した。

ひ子はこの構想図を以下のように作成した。

(2年生の最高の授業とは)

自分の意見を進んで発表し、仲間同士で考え合うことができる授業。

(どんなことが将来の自分に役立つのか)

- ・考える力
- ・仲間と協力して問題を解決する力。
- ・辛いことに挑戦する力。

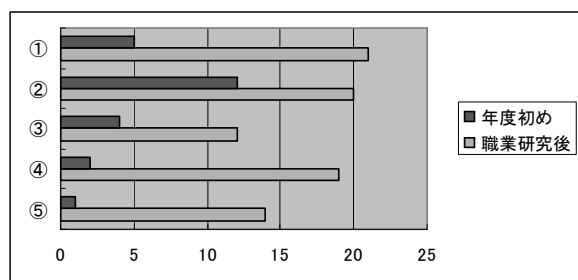
「辛いことに挑戦する力」と書いたのは、職業研究で明らかになった自分の弱点を克服したいという意識の表れだと推測できる。また、今まで苦手意識をもっていた勉強に、意欲的に取り組んでいきたいという前向きな気持ちも伺える。実現させようという思いを抱くことができた。

## 5. 成果と課題

(成果)

- ・職業研究終了後に、目的意識についてのアンケートを学級全員に採った。このアンケートは、年度初めに採ったアンケートと同じものである。集計結果の比較は以下の通りである。

### 【集計結果】



この結果の通り、年度当初と比べ、生徒一人一人が活動への動機をもち、自ら考え行動する姿が増えたことが、何よりの成果である。

- ・年度初めに、キャリア教育を柱とした学級経営を推し進めようと考え「学級経営方針図」を作成したことで、明確なビジョンをもち、学級経営を行うことができた。また、この方針図を作成したことで、生徒や保護者と共に、今年度目

指す方向を確認しながら学級経営を行えた。

- ・「輝き構想図」という個の目標を作成し、全ての教育活動の基盤に据えたことで、目指す方向にぶれが生じることなく取り組めた。また、理想の自分に近づくために、今何をすべきか考え、動機をもって活動に取り組むことができる手立てとなった。
- ・国立教育政策研究所から出されている「中学校におけるキャリア教育の目標」をもとに、学級活動の時間、総合的な学習の時間、道徳の時間でどんなキャリア教育を推進していくかを明確にしたことで、それぞれの教育の場の特性を活かしたキャリア教育を行うことができた。

(課題)

- ・活動への動機は抱くが、自分の弱さに負けてしまい、行動に表すことができない生徒が9名いる。個に応じたキャリア教育を推進していくことが、今後の課題となった。
- ・生徒に自分の変容を実感させるために、活動の事実と、その時の心情を系統的に表した背面掲示を作ることが有効だった。

(終わりに)

平成23年度から始まる「白川村小中一貫教育」に向けて、一年間、キャリア教育の推進を、学級経営を中心に行ってきた。白川村の教育目標は「自立」である。この目標を達成させるためには、小中連携したキャリア教育が必要不可欠であると考え。9年間を通してキャリア教育を推進していくためには、全ての教育活動の基盤となる「柱」が必要であると考え。東京都品川区では「市民科」という教科を独自に作り、9年間を通してキャリア教育を系統的に行っている。近年の日本の状況や白川村の実態を考えると、キャリア教育の推進を図り、自立心をもった子どもたちを育成していくことが必要であるということは言うまでもないが、小中一貫教育の「柱」を作り、目指す教育目標の達成を図ることが、白川村で小中一貫教育を行う最大の意義であると考え。

### 参考文献

- ・国立教育政策研究所「中学校におけるキャリア教育の目標」
- ・飛騨教育事務所 教育支援課 山田茂樹課長補佐「すべての人が幸せになるために ～個が活かされる学級経営をめざして～」